北の韋駄天 勝負の4年目

「強さ」テーマに盗塁王狙う

その「韋駄天ぶり」で注目を集めるプロ野球選手がいる。北海道日本ハムファイターズに所属する行田市出身の五十幡亮汰選手（26）だ。行田長野中時代に陸上の全日本中学校選手権で短距離2冠に輝いた経歴を持つ逸材は3年目の昨季、チームトップの17盗塁を記録。俊足・強肩の外野手として、コアなプロ野球ファンには既におなじみだが、全国区となると浸透度はこれから。今季はレギュラー定着に向け、勝負の年となる。地元への思いと、今季にかける意気込みを聞いた。（構成・埼玉新聞県北支社）

北海道日本ハムファイターズ
五十幡 亮汰さん（行田市出身）

いそばた・りょうた
1998年生まれ、行田市出身。東小ー長野中ー佐野日大高ー中央大。2020年、北海道日本ハムファイターズからドラフト2位指名。背番号は名前にちなみ「50」。右投げ左打ち。171cm／65kg。
球界屈指の俊足が持ち味。今季大ブレークの予感だ（共同）

ー野球をはじめたきっかけからお聞かせください。

行田東小1年（6歳）の時です。父の勧めで地元の「行田東フェニックス」に入団しました。自分では意識していなかったのですが、生まれつき足は速かったようです。よく「足の速さは遺伝？」と聞かれますが、家族のまわりをみても足が特筆するほど速い訳ではなくて、遺伝ではないとなると、自分でも分かりません（笑）。小学校では短距離、長距離走ともに常にトップでしたが、「自分は、俊足なんだ」と自覚したのは市内の小学校が集まる連合運動会の100mで1位になった時でしたね。

ー「行田東フェニックス」から「ヤクルトジュニア」へ。

公務員の父が、行田東フェニックスでコーチを務めていて、ポジションは、投手と内野手を交互に。打撃は最初から父の教えで左。家ではマンツーマンで、テニスボールを使っての打撃練習につきあってくれました。小6の時に、市内のチームで競う春季大会で行田東フェニックスは決勝で負けて準優勝でしたが、準優勝チームは、ヤクルトさんが冠スポンサーの大会の出場権を得ることができ、そこにヤクルト球団の関係者の方が観戦に来ていて、という流れで「ヤクルトジュニア」への声がかかりました。もしあそこで優勝していたら…。何かのご縁を感じます。

ー行田長野中へ進学。野球と陸上競技の「二刀流」時代。

中学は、そのまま地元の長野中に進学し、平日は陸上部の練習に参加し、土日はヤクルトジュニアで出会った仲間と一緒に野球をしたくて「東京神宮シニア」に行くことに。俊足を生かして外野手になりました。ヤクルトなどで選手やコーチで活躍された丸山完二さんが監督でした。野球への考え方・技術に関してはもちろんですが、挨拶など規律についても厳しかった。当時、東京神宮シニアは固定の練習場はなく転々する形だったので、父が早朝から夜遅くまで車で送り迎えをしてくれました。父は本当に大変だったと思います。ただ帰り道では「あそこはあだった」とか「あれじゃだめだ」とか、父から指摘されて。的を得ているだけに、それを聞くのが本当に嫌で、嫌で…。よく口げんかになったものです。でも、人として多くのことをシニア時代に学びました。いまの自分の礎になっています。

全中（全国中学陸上選手権大会）では全国1位という結果が出たので、まわりの方々の期待も感じましたが、あくまで自分の中では野球。そこはブレなかったですね。

ー高校は県内ではなく佐野日大高に。その後、東都の中央大へ。3年時春季リーグで優勝。2020年秋のドラフト会議で日ハムに支配下指名されます。しばしば「サニブラウン選手に勝った男」と紹介されました。

母を幼くして亡くしていて、特に食事の面で家族にこれ以上負担はかけられないと、高校は寮生活ができる環境を選びました。一歳上の姉が佐野日大に進学していたので、特に不安はありませんでした。中学を卒業した時に佐野日大は春の甲子園に出場（2学年先輩にオリックスの田嶋大樹投手）。2年の冬から遊撃手になりましたが、甲子園出場は一度も叶わず。自分にとって、プロ野球はまだまだ、はるか遠い世界でした。

中大時代では、外野手に戻り、1年からレギュラーに定着して3年春にリーグ優勝も経験しました。ドラフト会議では、北海道日本ハムから2位で指名（同期の牧秀悟選手も、横浜DeNAベイスターズに2位指名）。プロへの扉が開き、これからが本当の勝負だと思ったのを覚えています。

ー昨年は、自己最多70試合に出場。リーグ5位（チームトップ）の17盗塁でしたが、9月17日のソフトバンク戦のケガで残り1カ月戦列を離れました。4年目のシーズンに向けて。

今シーズンは、キャンプ前から、少しずつ、体重を上げているのですが、いろんな意味で「強さ」をテーマに開幕に向けて調整を進めています。けがに対する強さ、シーズンをフルに戦える強さ、チャンスでのバッティングの勝負強さ。目標は昨年の契約更改の時にも言いましたが、盗塁50、出塁率3割5分。盗塁王は狙わないといけないですし、そこ（足）が一番の武器だと思うので。全試合出場を目指したい。そうすれば結果は自ずと付いてくると思っています。

ー行田市民、読者にメッセージを。

高校から行田を離れましたが、自分の野球の原点は行田にあります。ドラフト時（2020年）はコロナ禍ということもあり、地元でお世話になった皆さまに、駆け足でのご挨拶になってしまったので、今シーズン結果をしっかり残して、胸を張って行田に帰郷できるよう頑張ります。これからも応援どうぞよろしくお願いします。

（写真提供　中央大学、佐野日本大学高等学校、行田市立長野中学校、五十幡雅弘さん）

自主トレーニング後、取材に応じる五十幡選手＝1月27日、ファイターズ鎌ケ谷スタジアム（相澤利一撮影）

中学3年の卒業前に取材して以来、約10年ぶりにインタビューが実現した（埼玉新聞2014年3月18日付12面）

五十幡選手 各世代のあゆみ

行田東小

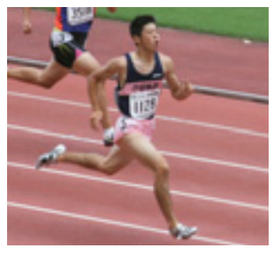
行田市立東小時代は地元の行田東フェニックスに所属。投手と内野手をしていた

東京ヤクルトスワローズジュニアにスカウトされ福岡ドームでプレーするなど大きく飛躍

行田長野中

行田市立長野中へ進学すると、硬式野球を求めて発足2年目の東京神宮リトルシニアへ

U-15の日本代表にも選ばれ国際大会を経験。初めて日本代表のユニフォームに袖を通した


長野中3年時、全国中学陸上選手権100m（10秒92）、200m（21秒81）で2冠の快挙

佐野日大高

高校は県内でなく、栃木の強豪・佐野日大高で甲子園を目指した。2年冬から遊撃手に

中央大

中央大学では外野に転向し1年からレギュラーに定着。2年秋と3年秋にベストナイン

2020年のドラフト会議で日本ハムから2位指名を受け、笑顔でガッツポーズ

行田市観光PR隊
忍城おもてなし甲冑隊
成田長親

家庭用から業務用まで豊富なラインナップ

SGS-8100BT

SGS-125K

災害時の停電対策に
非常用ガスエンジン発電装置
ガス電くん®
設置が終われば操作は不要！あなたの生活を守り続けます
■停電を感知すると自動で運転開始。復電後は自動で停止します。
■72時間以上の連続稼働が可能。災害時に発生するほとんどの停電をカバーします。
■ご利用者様が燃料の補充や点検、操作を行う必要は一切ありません。
■一般住宅でも設置しやすい小型機から125kWクラスの大型機まで豊富なラインナップ。
■学校・宿泊施設・医療機関・官公庁・一般住宅等多数の導入実績がございます。
■商用電源並みに良質な電気を供給。精密機器の使用も可能です。
■長期保存可能で災害時にも調達が容易なLPガスを使用（都市ガスにも対応）。信頼性が高くクリーンで低騒音なガスエンジンで発電します。
非常用ガス発電装置の開発・製造
株式会社昭栄
ガス電くん事業本部
埼玉県行田市藤原町 3-2-4
TEL: 048-501-2175 FAX: 048-501-2275